

今月のコラム

四川省にて



豊明花き株式会社 代表取締役 福永哲也

先日、中国の四川省を訪問した。我が国では3月11日に東日本大震災が発生し、現在もその復興途上にあるわけだが、四川省では2008年5月12日に大地震が発生し、山崩れや建物が崩壊して多くの方が犠牲になった。被災された人数は9万人を超え、今尚瓦礫の下で行方不明者1万人以上が眠っているという。特に被害の甚大だった北川地区では崩壊した街がそのまま博物館として遺されている。この被害を天災がもたらしたというよりも「おから工事」や「手抜き工事」による建物の耐震性欠如による人災であり、惨状を保存することで過ちを繰り返してはいけないと後世に伝えることが目的という。鉄筋を減らし、コストを抑えた建築で利益を残し、役人へ賄賂を贈り、次の受注を取るという構図が大きな被害を招いた。多くの小中学校の校舎が倒壊し、犠牲になった子供たちは約1万9千人だそうで死者、行方不明者全体の2割を超える。ネットの書き込みでは小中学校の校舎が中国では子供たちの命を葬る墓場となり、日本では人々の避難所となり、心のよりどころになっていると指摘された。

取引先が農場移動の途中で、この北川地区に案内してくれた。倒壊した建物の柱や壁からむき出しになっている鉄筋を見ると素人目にも細くて数が少ないことが見て取れる。あらためて天災よりも人災の説明に納得した。

そこから20kmほど離れた場所に住宅やショッピングモール、学校などを整備し、新しい街が作られていた。新しい建物は震度8にも耐えられる耐震構造だという。また緑化も重要視していて、一人当たりの緑地面積は16平方メートルを確保しているそうで、旧市街から移りすんだ人々の暮らしは快適で安心だという。新華社通信によると中国当局は約11兆円の投資を終え、復興事業のうち94%が完了したと伝えている。崩壊した旧市街も驚いたが、4平方キロに渡り、広々とした道路と公園が整備された新市街は素晴らしいものであった。

人災により甚大な被害を招いたが、その後の復興に向けた取り組みにはスピーディーな決断と実行が感じられた。中国ナンバー3の温家宝総理は震災直後から現地入りし、復興に向けてリーダーシップを発揮したという。日本政府も復興に向けて国民とともに全力で取組んでいるんですよと尋ねられた。

さて、帰国すると松本復興相が問題発言をしたとかで物議となっていた。その後辞任することとなった。どうか我が国の政府は天災を人災に変えぬようにと切に願うものである。





セミナー募集

「英国ガーデンの現状と日本のガーデンのあるべき姿について」 前ホームセンター園芸バイヤーの 矢野信行氏が講演

きたる9月27日八ヶ岳で行われる『ガーデントライアル IN 八ヶ岳 2011』会場にてセミナーを行います。小売業者ばかりでなく、生産者、メーカーなど業界関係者も参考になります。トライアルと併せ、奮ってご参加ください。

内 容	テーマ：英国ガーデンの現状と日本のガーデンのあるべき姿について ① 2011 チェルシーフラワーショーでの傾向 ② 英国小売店の実態（花・野菜や関連品の展開例） ③ 日本で普及可能な商品群やサービスとは
	日 時：2011年9月27日（火）13:30～15:00 会 場：フィオーレ小淵沢セミナー室（山梨県北杜市小淵沢町1270 TEL.0551-36-6611） 講 師：ガーデンスタイル研究所 矢野信行所長（前 HC 園芸バイヤー）
概 要	参加費：ガーデンを考える会会員 3,000円（一般 5,000円） 締 切：9月15日（定員になりましたら締切することもあります） 募 集：40名



ガーデンスタイル研究所
所長 矢野 信行 先生

平成元年、日本で最初のDIYセンター「ドイト」の商品部園芸バイヤーから始まり、昨年の「ピバホーム」商品部GMまで、22年間複数企業の商品部に在籍。日本初のイングリッシュガーデンコンセプトや都心のガーデニングをコンセプトにした特長ある商品を使った売場づくりを、100店舗以上経験。昨年独立し、園芸コンサルタントのガーデンスタイル研究所を設立。
ホームセンターでの豊富な経験をもとにした、お客様に支持されるガーデンセンター支援をテーマにコンサルタント活動中。

セミナー問合せ：NPO 法人ガーデンを考える会事務局 TEL：052-571-7911 FAX：052-571-2208 e-mail: npogarden@green-joho.jp
※フラワートライアル情報交換会：9月27日18:30～20:30 諏訪市にて開催 問合せ TEL.052-571-2200

花いっぱいキャンペーン

グリーンアドバイザーによる花いっぱいキャンペーン 震災支援、第2弾、3弾を計画

日本家庭園芸普及協会では、グリーンアドバイザーによる5月21・22日の東日本震災支援「花いっぱい in 大船渡」に引き続き、8月20日～9月11日（予定）に東北各地に花を植えたプランターを全体で1000セット、10月頃に東北各地に秋植え球根を配布することになっている。

また、提供先、東日本大震災により被災された自治体や避難所・仮設住宅等の自治会、被災地の学校・幼稚園・保育園・病院・福祉施設等の団体、被災地支援活動を行っているNPO法人などの団体、及び参加者・ボランティアも募集している。

問合せは、花と緑の復興支援運営事務局
(NPO 法人 GreenWorks 内)
Tel&Fax03-3734-3554、担当：牧野 まで。
http://www.kateiengei.or.jp/campaign_hanaippai.pdf



短 信

住友化学園芸(株)事務所移転 新住所〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-5-4 ダヴィンチ桜橋5F
TEL :03-6222-2800 (代) FAX :03-6222-2801 (代)



カエデ
kaede

常識を打ち破る

胡蝶蘭が変わる!?! 360度楽しめる「彩華のワルツ」が人気

今年春の関東東海花の展覧会に出展し銅賞を受賞してデビュー、農業新聞、埼玉新聞、テレビなどメディアで取り上げられたり、あるいは主要花き市場での見本展示などで大きな話題を呼んでいる胡蝶蘭「彩華のワルツ」。すでに数百鉢を納品し、確かな手ごたえを感じている。開発・商品化したのは、胡蝶蘭生産の大手、(有)黒白洋蘭園（さいたま市、黒白秀之社長）。

胡蝶蘭は、前方にお辞儀をした形に仕立てるのが主流で、そのため、胡蝶蘭は正面から干渉するのが常識。「彩華のワルツ」はこの常識を打ち破り、360度どの方向から観賞しても胡蝶蘭の美しさを楽しんでいただきたいという思いから開発された。らせん状に組んだ支柱に沿わせ、竜巻状に天空に向かって仕立ててある。部屋の中央においても十分に存在感を示す。



国際バラとガーデニングショウ

バラの香りにつつまれた6日間

世界の美しいバラとガーデニングを紹介する「第13回国際バラとガーデニングショウ」が5月11～16日、埼玉県所沢市の西武ドームで開催され、期間中21万9670人が来場した。

今回は、「心惹かれるバラの香り」がメインテーマ。デビッド・オースチン・ローズ社による「イングリッシュローズで作る～ファイブ・フレグランス・トレイル～」などの、「香り」を体感できる企画で来場者を楽しませ、ドーム全体をバラの香りにつつまれこんだ。



震災に負けずに元気に出展した大森プランツ

第6回ガーデンコンテスト大賞受賞者のユ・メ・ミファクトリーのマリーさんによる南フランス・プロバンスの風景のような香りのローズアベニュー



会員紹介

有限会社 三和園芸

全国的に例年より早く梅雨明けが宣言され、とうとう夏本番を迎えました。連日気温は30度を超え、どうやら今年も去年に引き続き、酷暑の夏になりそうです。

日本の夏の風物詩、丹波ほおずき。弊社はほおずきを作り始めて42年になります。毎年浅草のほおずき市をメインに、全国のほおずき市や売店にお届けしております。お中元やギフトにも喜ばれております。夏の始まりと共に、下から少しずつ赤みが増してくる様は何とも言えません。上手に管理出来れば、10月頃まで楽しむことができ、そのあとは切り枝としてドライフラワーでも楽しめます。

これからも日本の伝統を受け継ぎながら、皆様に季節感をお届けできるよう、ほおずきを作り続けていきたいと思っております。

〒306-0125 茨城県古河市仁連990-9
TEL: 0280-76-0791 FAX: 0280-76-3420





カエデ
kaede



「庭の時間」に見る“庭の可能性”

株式会社ユニソン 高柳重樹

昨年より、弊社総合カタログの巻頭で特集している「庭の時間」は、ガーデンと暮らしの素敵な関係をフォトエッセイでご紹介するシリーズです。Vol.01 庭の光、Vol.02 庭の色を発表し、庭で過ごす時間、庭から始まるできごと、そして庭にまつわるエピソード、つまり、生活の中心に庭があって、そこから始まる物語を展開しています。

そもそも弊社が「庭の時間」を企画したきっかけは、庭が、観賞する・デザインするだけではなく、“菜園”のように、多くの方が日常的に関わりを持つ暮らしの場へと変わってきたと感じたからです。自然を感じ、家族とともに過ごす快適な暮らしを応援するメーカーとして、早くから家庭菜園の広がりに着目していました。それは人生を豊かにする暮らし、人との触れ合い、育み・食す楽しさはガーデンエクステリアの大切なキーワードだと考えていたからです。

かつて企業が行ってきたメセナとは一線を画し、メーカーが自ら市場を創り、その楽しさをお客様と共感する事例が他業界でも増えてきました。私たちガーデンエクステリア業界も、時流に敏感に反応し、お客様のニーズを先取り、具体的な提案をしていく必要があるのではないのでしょうか。

私たちの取り組みは、まだ始まったばかりです。ステレオタイプの楽しみ方ではなく、多様化する価値観や生き方＝ライフスタイルを取り込み、庭をかけがえのない空間にすることで、新たな需要を喚起し、新たなビジネスにつなげていきたいと考えています。現在、そのきっかけになっている“菜園”を一過性のブームにせず、これからも「庭の時間」のような情報発信やデザインセミナーなどの企画にこだわり、業界を変える、時代の流れを変える存在になりたいと思っています。



生産者部会より

ミヤコワスレ

【日本人らしい花】をテーマに普通にある品種もしくは日本に昔からある品種を選抜しながら、または交配をしながら生産しています。今回はその中の一つであるミヤコワスレを紹介させていただきます。

素朴な花であるため、あまり市場などでは目に留まりにくい植物で、どちらかというと山野草というイメージの強い植物ではないでしょうか。そんな花をもう少し身近にできるように、もう少し楽しみが増えるように、植物の特徴を表現しつつ品種改良を重ねながら商品性を追求しています。オリジナルも増えつつあり、日本人らしい花の提案ができるよう販売店様や園芸ファンの方などの声を聞きながら取り組んでいます。

鈴木園芸（東海支部）

